



共成

昭島市立共成小学校
校長 佐伯 孝司
令和元年10月1日

HP <http://www.city.akishima.ed.jp/~kyosei/>

運動会の点と線

校長 佐伯 孝司

バスの車窓から外を見る。停留所から発車しかけたバスに向かって、片手で杖を突きながら足を精一杯前へと動かし、懸命にもう一方の手を振る高齢者。運転手はその姿に気付く。しかし、バスはそのまま加速していく。手を振る高齢者の姿は小さくなっていき、やがてすっと見えなくなる・・・。「この運転手はお客様のことを考えているのだろうか」という意見もあるかもしれません。実はこの運転手、以前はこのように時にはバスを止め、扉を開けていました。しかし、お客様のことを考えて待つてあげることが、かえって危険な駆け込み乗車の増加、転倒して怪我をする事故、バス運行の遅れ等に繋がる事例を知りました。以降、お客様のことを考えた末に、あえてバスを走らせるという考えをもったのだということです。

このシーンは、東京都教育委員会が作成した道徳授業地区公開講座用の映像資料の一部から記述しました。夏休みにこの映像等を使って、本校教員が「考え、議論する道徳」の授業づくりの研修を2回実施し、先月の学校公開で道徳の授業を行いました。ご参観、ご協力ありがとうございました。

この運転手の考えについては様々な意見があって当然です。ただ、「目の前の出来事から、目に見えていない、そこに至るまでの過程を想像することは、とても大切だ」ということは言えると考えます。目の前の出来事は、流れる時の中の一つの点です。時の流れの長い線を構成する一つの点を見ただけで線を理解したつもりにならず、線があることを考えて一つの点を理解しようとする。それが重要だと考えます。

目前に迫った運動会。運動会に至る過程で児童は、目標をもって練習しながら、課題解決のために考え、話し合い、試行錯誤します。力の限り自己の責任を果たすこと、仲間を思い、できることを判断し行動に移すこと…などを学んでいます。また、運動会後にも、その経験を生かす過程があります。

先日の第1回全校練習でのこと。1年生の「始めの言葉」の場面。本校教員は、言葉を発している1年生だけでなく、その言葉を聞いている全校児童をそれぞれの視点でよく見ていました。練習後に教員同士で、「1年生をじっと見つめる目に力が入っていた」「聞く姿勢に1年生



全校練習：応援合戦

を応援する心がこもっていた」「誰も教えていないのに自然に温かい拍手が校庭に広がった」「相手を思いやる気持ち、良い運動会をつくらうという目的意識、できることを頑張ろうとする判断・行動力が育っている」…などと児童の姿から得た感動を話し合っていました。教員は、その児童の姿を一つの点としてよりも、線で繋がる過程を大切に、変容を見取りながら指導しようと目標を共有しています。

運動会は、練習等の一コマ一コマから今後の成長に向けてまで線で繋がる学習活動です。目の前の点が繋がっている線を思い浮かべてこそ、心がふるえるようなドラマになり得ます。晴れ舞台を見せるためのショーではありません。運動会において皆様には、児童の姿の一点から、その線上にある準備期間の過程を経た児童の思いを丸ごと受け止めていただきたい。今後運動会の経験を生かす過程に繋がっていることも念頭に置いて応援していただきたい。



限られた時間で一生懸命に練習してきました

そんな心を込めた拍手を会場一杯に響かせたいと願っています。お子さんの運動会を見にいらした保護者であると同時に、「共成小の子供たちの成長を支える大人として何が出来るか」というお気持ちでも、拍手や声援をいただければ幸いです。

運動会の練習や準備において、保護者や地域のボランティアの方々には多大なご力添えをいただいております。この場を借りて心より感謝申し上げます。